

第 25 回建設業経理士検定試験 2 級試験問題

< 第 3 問 >

問 2 平成 30 年 12 月の工事原価に関する次の<資料>に基づいて、解答用紙に示す月次の工事原価明細表を完成しなさい。

なお、材料については購入時材料費処理法によっている。

<資料>

1. 月初及び月末の各勘定残高	(単位：円)	
	月初	月末
(1) 未成工事支出金		
材料費	252,000	235,000
労務費	165,000	142,000
外注費	538,000	582,000
経費	158,000	162,000
(経費のうち人件費)	(18,000)	(15,000)
(2) 工事未払金		
材料費	236,000	218,000
労務費	89,000	96,000
外注費	289,000	247,000
動力用水光熱費	7,500	8,000
従業員給料手当	16,000	15,000
法定福利費	600	500
(3) 前払費用		
保険料	8,000	12,500
地代家賃	17,000	18,000
2. 当月材料費支払高	766,000	
3. 当月労務費支払高	865,000	
4. 当月外注費支払高	2,385,000	
5. 当月工事関係費用支払高		
(1) 動力用水光熱費	68,000	
(2) 地代家賃	49,000	
(3) 保険料	6,000	
(4) 従業員給料手当	114,000	
(5) 法定福利費	3,800	
(6) 事務用品費	6,200	
(7) 通信交通費	22,600	
(8) 交際費	53,000	

※ 次ページより解説があります。

< 第3問 問2 の解説 >

資料が多いですが、落ち着いて、関係する数字だけを抜き出して考えていきましょう。

「前払」「未払」という言葉が出てきたら、まずは以下の図を思い出しましょう。

原価項目		原価項目	
月初前払	当月発生	当月支払	月初未払
当月支払			当月発生
	月末前払	月末未払	

この図に当てはめることで、当月発生額は簡単に計算することができます。

また、完成工事原価は、

未成工事支出金	
月初	当月完成
当月発生	
	月末

この図より求めることができます。

また、「前払」と「未払」が混在している場合も、

原価項目		原価項目	
当月支払	月初未払	月初前払	当月発生
	当月発生	当月支払	
	月末前払	月末未払	

このように求めることができます。

材料費の当月発生額 = 766,000 + 218,000 - 236,000 = 748,000

材料費の当月完成額 = 252,000 + 748,000 - 235,000 = 765,000

労務費の当月発生額 = 865,000 + 96,000 - 89,000 = 872,000

労務費の当月完成額 = 165,000 + 872,000 - 142,000 = 895,000

外注費の当月発生額 = 2,385,000 + 247,000 - 289,000 = 2,343,000

外注費の当月完成額 = 538,000 + 2,343,000 - 582,000 = 2,299,000

動力用水光熱費の当月発生額 = 68,000 + 8,000 - 7,500 = 68,500

地代家賃の当月発生額 = 17,000 + 49,000 - 18,000 = 48,000

保険料の当月発生額 = 8,000 + 6,000 - 12,500 = 1,500

従業員給料手当の当月発生額 = 114,000 + 15,000 - 16,000 = 113,000

法定福利費の当月発生額 = 3,800 + 500 - 600 = 3,700

事務用品費の当月発生額 = 6,200

通信交通費の当月発生額 = 22,600

交際費の当月発生額 = 53,000

経費の当月発生額 = 68,500 + 48,000 + 1,500 + 113,000 + 3,700 + 6,200
+ 22,600 + 53,000
= 316,500

うち人件費 = 従業員給料手当 + 法定福利費
= 113,000 + 3,700
= 116,700

経費の当月完成額 = 158,000 + 316,500 - 162,000 = 312,500

うち人件費 = 18,000 + 116,700 - 15,000 = 119,700